

熊本市第8次総合計画(案) 新旧対照表

No	修正前(旧)	修正後(新)
1	P7「Ⅲ まちづくりの基本理念」	
	個人の権利や自由が尊重される一方で、人と人とのつながりが希薄になりやすい時代とされていますが、本市においては、甚大な被害をもたらした熊本地震の混乱の中においても、行政をけん引する形で市民が自然発生的に活動し、地域やコミュニティで連携しながら、困難を乗り越えてきました。	個人の権利や自由が尊重される一方で、人と人とのつながりが希薄になりやすい時代とされていますが、本市においては、甚大な被害をもたらした <u>平成 28 年(2016 年)熊本地震(以下、「熊本地震」という。)</u> の混乱の中においても、行政をけん引する形で市民が自然発生的に活動し、地域やコミュニティで連携しながら、困難を乗り越えてきました。
2	P32 ビジョン1 施策1-1 基本方針(1)	
	学校・家庭・地域社会など、様々な場面におけるこどもの悩みや権利擁護に関する相談を受け付け、解決を図ります。	学校・家庭・地域社会など、様々な場面におけるこどもの悩み <u>への相談を受け、解決を図るとともに、こどもの権利に関する広報・啓発に取り組めます。</u>
3	P34 ビジョン1 施策1-2 基本方針(1)	
	「(1)社会的な支援の必要性が高いこどもや子育て家庭への支援」	「(1)社会的な支援の必要性が <u>ある</u> こどもや子育て家庭への支援」
4	P39 ビジョン2「背景と課題」	
	そして、これらの都市の活発な経済活動を支え持続的な発展へとつなげるためにも、ヒトとモノの流れを円滑化する広域交通ネットワークが着実に形成されることが求められています。	そして、これらの都市の活発な経済活動を支え持続的な発展へとつなげるためにも、 <u>本市の慢性的な交通渋滞を緩和し、広域的なヒトとモノの流れを円滑化する広域交通ネットワークを着実に形成する</u> ことが求められています。

5	P56 ビジョン4 「関連する出来事」	
	世界経済フォーラム「ジェンダー・ギャップ指数2023」で日本は146か国中125位	<u>日本は、国連開発計画(UNDP)「ジェンダー不平等指数」(2022)で 191 か国中 22 位だった一方で、世界経済フォーラム「ジェンダー・ギャップ指数」(2023)では146か国中125位(いずれの指数も上位が平等、下位が不平等であることを示す。)</u>
6	P56 ビジョン4 「関連する出来事」	
		(以下記述の追加) <u>「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」の一部改正が施行(令和6年(2024 年)4月)</u>
7	P76 ビジョン7 「関連する出来事」	
		(以下記述の追加) <u>「熊本市公共施設等総合管理計画」の改定(令和4年(2022 年)3月)</u>
8	P84 ビジョン8 「背景と課題」	
	このほか、近隣市町村をはじめ、政令指定都市や九州各都市、熊本県等と課題や目指すべき将来像を共有し、広域的な取組を強化していく必要があります。	このほか、近隣市町村をはじめ、 <u>他の政令指定都市や九州各都市、熊本県等と課題や目指すべき将来像を共有するとともに、政令指定都市移行に伴い拡大した権限と財源を最大限にいかし、熊本県や熊本圏域をけん引し、全体の浮揚につなげるため</u> 、広域的な取組を強化していく必要があります。